

【モビリティ社会の方向性】

世界自動車産業のゲームチェンジ 2026

～エネルギー情勢と市場の地域差、
BEV・エンジン・SDV・自動運転の変化を読み解く～

一 講 師 一 一般社団法人日本自動車部品工業会 技術顧問 古野 志健男 氏

日 時 2026 年 1 0 月 2 2 日 (木) 午後 1 時～ 3 時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)
会 場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋 2-6-2 ザイマックス西新橋ビル 4F

[重点講義内容]

2026 年 2 月の米国・イスラエルによるイラン攻撃でホルムズ海峡が事実上閉鎖され、原油・ナフサ等石油製品の価格高騰と燃料不足が世界経済を直撃した。再生可能エネルギー(再エネ)が普及する一方、世界が今なお原油に大きく依存しているというエネルギー危機の現実が浮き彫りとなった。

これを機に BEV の価値が改めて見直され、市場の地域差が鮮明になっている。欧州・日本・東南アジアでは拡大する一方、米国では縮小が続く。中国では REEV も伸長し、余剰再エネの活用に向けた水素社会への動きも加速している。

また、AI や SoC の進化により、クルマの価値はハードからソフトへ移り、SDV・自動運転の開発が急速に進んでいる。一方で、技術先行への懸念もある。

本講演では、これらの変化を整理し、エネルギーを含む今後のモビリティ社会を展望する。

1. 世界のエネルギー情勢や政策の変化点
2. 世界自動車市場変化に伴う自動車メーカーの最新戦略
3. SDV/自動運転の今後 (V2X、MaaS)
4. エンジンの逆襲(DHE、水素エンジン)
5. 燃料電池車 FCEV の行方
6. 今後のモビリティ社会の方向性
7. 質疑応答／名刺交換

P R O F I L E 古野 志健男(ふるの しげお)氏

1982 年 豊橋技術科学大学電気電子工学専攻修了。同年トヨタ自動車工業(現・トヨタ自動車)入社。東富士研究所配属後、エンジン先行開発部門にて 30 年間従事。2005 年 エンジン先行開発部部長に就任。2012 年 日本自動車部品総合研究所(現・SOKEN)に転籍し常務、2013 年 同社専務、2020 年 エグゼクティブフェロー、2025 年 顧問、現在に至る。

2014 年～2019 年 内閣府 SIP 革新的燃焼技術サブプログラムディレクター。2013 年～2020 年 国立豊橋技術科学大学経営協議会委員。2018 年～ 日本自動車部品工業会技術顧問。2019 年～2025 年 日経クロステックコラムライター。2022 年 三重県脱炭素社会推進検討会議有識者委員。2025 年～2026 年 特許庁令和 7 年度特許出願技術動向調査委員会委員。2025 年～ 経済産業省 令和 7 年度 GO-Tech 事業推進委員会委員。

